

ようこそ沖繩県本部町交流団の皆さん



町内の児童と交流を深める

「友好の町」沖繩県本部町と、平成3年から子どもたちの交流事業が行われています。23回目を迎えた今年は、1月27日から1月31日までの日程で、本部町から20名の交流団の皆さん（小学5年生15名、随行者5名）が本町を訪れ、町内の児童と交流を深め、白銀の大地『冬の北海道』を体験しました。

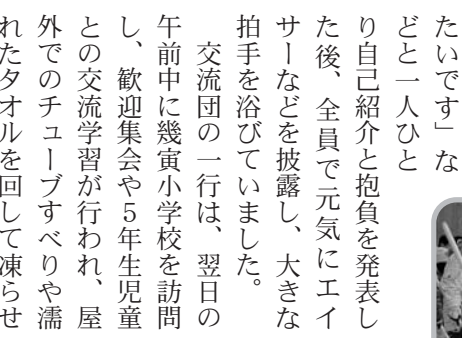


歓迎会でのアイスクャンドルの前で



幾寅小児童との交流

から、「本部町では1月18日から日本一早い桜まつりが開催されています。氷点下の北海道、雪を初めて見る児童も多く、期待に胸を膨らませています。今後ともこの交流事業が発展継続できるよう努力してまいります」と高良文雄本部町長のメッセージが披露されました。本部町の児童か



幾寅小でのエイサー披露

ら、「学校での交流、スキーやワカサギ釣りの体験を楽しみにしています」「ホームステイで交流を深め、生活文化の違いを学びたいです」など一人ひとり自己紹介と抱負を発表した後、全員で元気にエイサーなどを披露し、大きな拍手を浴びていました。交流団の一行は、翌日の午前中に幾寅小学校を訪問し、歓迎集会や5年生児童との交流学習が行われ、屋外でのチューブすべりや濡れたタオルを回して凍らせ



落合小・北落合小児童とのカーリング交流



下金山小・金山小児童とのスキー交流授業



札幌ラーメン共和国で

たりなどで交流を深めました。午後からは、落合のどろろ野外学校で犬ゾリを体験し、空知川スポーツリンクスでは、落合・北落合小学校児童とカーリング体験を通して交流を深めました。氷の上を歩くのは初体験とあって、悪戦苦闘しながらも、地元児童から、ストーンの投げ方を教わり、ミニゲームなどを楽しみました。

3日目は、早朝かなやま湖でワカサギ釣りに挑戦。はじめて触る小さな釣竿に戸惑いながら、ワカサギが釣れるとテント内には歓声が響きわたり、釣り上げたワカサギはその場で天ぷらにして試食していました。スキー場では、金山・下

金山小学校の児童とスキー体験を通じた交流が行われ、先生方や地元児童から指導を受けて、ほとんどの児童が滑れるようになりました。この日の夜は、各ホームステイ先で交流を深めました。

1月30日の早朝には、ホームステイ先の家族に見送られ、本町を離れた交流団の皆さんは、南千歳から札幌まで列車乗車体験を行い、ラーメン共和国で昼食を食べ、時計台・札幌雪まつり会場・テレビ塔を見学後、地下鉄を体験して、翌日たくさんの思い出を胸に帰路につきました。7月には、本町の6年生が本部町を訪問する予定になっています。

しょうぼう広報 ほのお

骨折・やけどに対する応急手当について

この時期路面凍結による転倒やウィンタースポーツなどで骨折する危険性が高まります。また、ストーブなどの暖房器具によるやけどや湯たんぽに長時間同じ部位を接触させていると深いやけど（低温熱傷）を起こしてしまいます。今回は骨折・やけどに対する応急手当を紹介したいと思います。

☆骨折または骨折したかもしれない場合の応急手当

- ① 部位の確認～痛がっているところを聞き、可能ならば変形や出血がないかを確認します。救急車が必要な場合は119番通報して下さい。
- ② 固定～変形している場合は無理に元の形に戻してはいけません。骨折部位にそえ木や雑誌・ダンボールなどを当て、三角巾や包帯・タオルで固定します。（図1・2）三角巾などで固定する場合は強く結びすぎないことや傷口に結び目がこないことに注意し、傷口が土砂などで汚れている場合は水で流すなどして清潔を保ちましょう。腕の場合は三角巾でつるしますが、スーパーのレジ袋に腕を通す穴をあけ、吊るすことができます。（写真1）

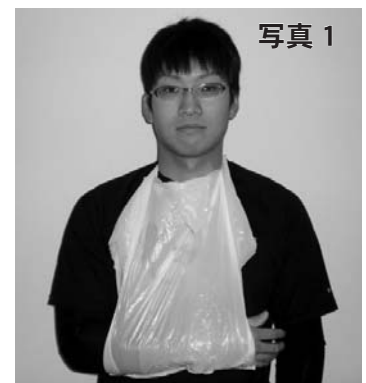
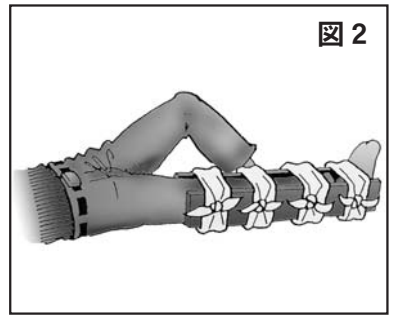
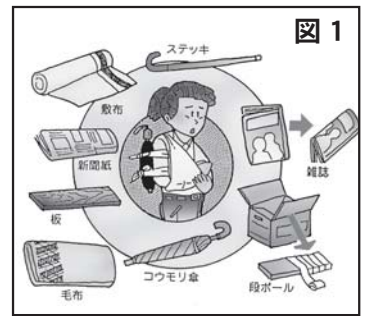


写真1

☆やけどに対する応急手当

暖房器具を使う場合はやけどをしないよう、自分だけでなく周囲の人が気を配り予防することが大切です。特に湯たんぽを使う場合、同一部位に長時間接触させない・カバーをつける・熱すぎるお湯をいれない・電気毛布等の暖房器具と併用しないといった注意が必要です。

- ① やけどの部位の確認～どの程度のやけどか。範囲や程度を確認して下さい。広範囲のやけどや、顔面・陰部のやけど、皮膚が焦げたり白くなり痛みを感じないような深いやけどはすぐに119番通報して下さい。
 - ② 流水で冷やす～すぐに清潔な流水で冷やすことが重要です。やけどを冷やすと痛みが軽くなるだけでなく、やけどが悪化するのを防ぐこともできます。（図3）
- ポイント～靴下など衣類を着ている場合は皮膚がくっついている場合があるので、脱がさず冷やします。氷やアイスパックを使って冷やす場合は冷やしすぎてしまい、かえって悪化することがあるので注意します。**水ぶくれはやけどの傷口を保護する役割があるので破いてはいけません。**すぐに水で冷やした後にガーゼやタオルで覆って出来るだけ早く医療機関へ行きましょう。

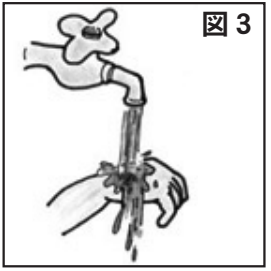


図3

南富良野支署出動件数（平成25年中）
火災出動 3件
救助出動 4件
救急出動 122件
南富良野支署救急救助係 52-2119
✉ fs-nanpu@vesta.ocn.ne.jp